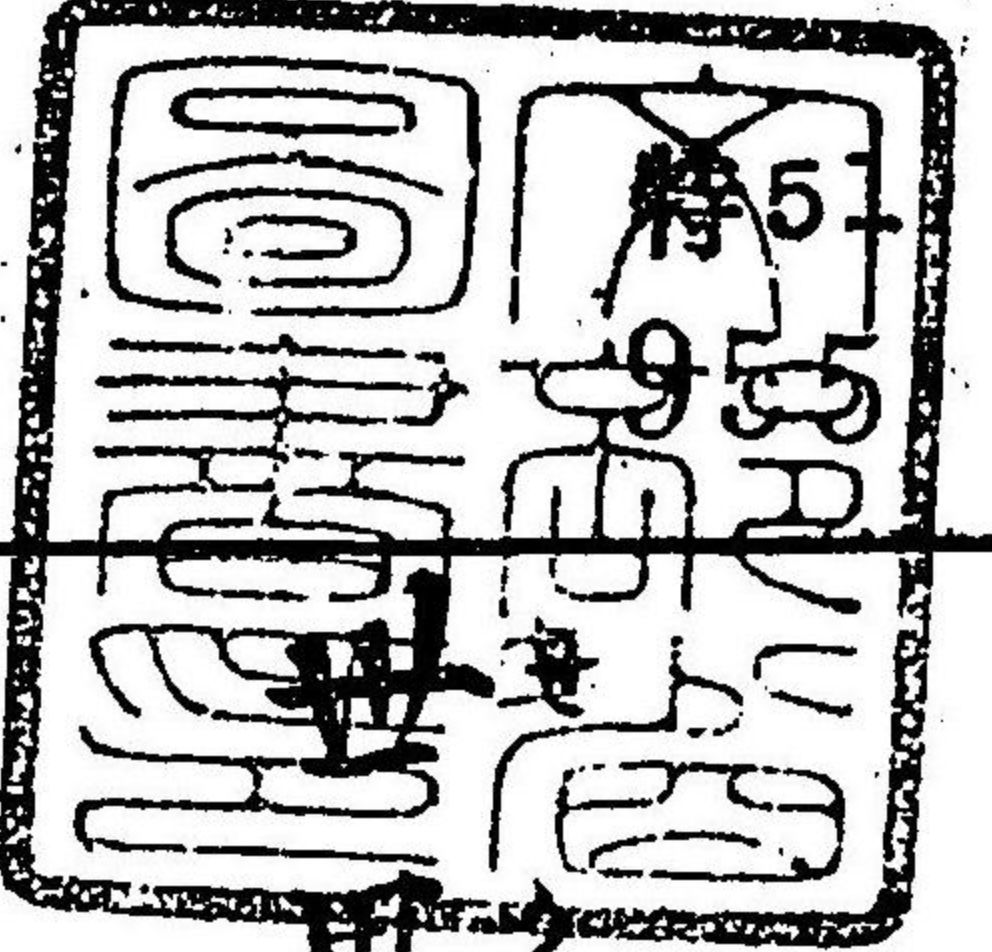


使たて六ろく七しち八はち歳さい小せう兒ね

古今袖鏡

諸もろ百もも廿に二に朝あさ故こ事じ



古今袖鏡

世よの國くに乃なけけハ賢かき神かみ

のー里さともと、らつこも神かみ代よのふ

同おな話はなふ

東あづま書しよ館くわん

事こと跡あとの始はじめ末まつ備そまワらに、あま

不思議の事多く、常の教と系  
一、可、故、夫と、閣、  
つ、そ、我國、日本、の人皇初  
代神武帝、日向の國より事  
所、免、東、諸、國、を、打、靡、け、

長髓彦、坐、諸、の、賊、を、平、け、大  
和、を、橿、原、よ、り、の、御、即、位、の、正  
一、記、録、の、始、を、夫、よ、り、  
續、く、御、子、を、御、子、綏、靖、安、寧  
懿、德、帝、孝、昭、孝、安、孝、靈、帝、

孝元かうげん開化かいけ崇神すぜん帝てい垂仁すゐにん帝ていよ皇  
景行けいこう帝てい此時このとき皇子みこ日本やまと武東ぶとうの  
夷えいを征伐せいぼつし成務せいむ天皇てんわう土地ち  
城割じやうわりり支配しはいの法ほうを立たて給たまふ仲ちゆう  
衰崩あひせいし御遺腹ごいふくの應神おうじん

生うきかのの皇こう后こう攝政せつせいし  
殄たひて三韓さんかんもも後ごへり應おう  
神じんの頃ころ王わう仁にんをを人ひとより論語ろんご  
傳つたへりて聖せいの道みちの本もととあり仁にん  
徳とく實まことり仁にんなりて三年さんねん此年このとし

貢ゆるし、つぎ 珍うまひ、民たみの宥かまども賑にぎり、  
履つぎ中の次つぎハ、反はん正まさ帝てい允あん、  
恭きん安あん康かう雄ゆう畧りやく帝てい、清せい寧ねい、  
顯けん宗そう、  
仁じん賢けん帝てい、武ぶ烈れつ、  
繼けい體たい安あん閑かん帝てい、  
宣せん、  
化くわの次つぎハ、欽きん明めい帝てい、  
百ひやく濟さいの國こくト皇わう

献けん一いつにる、佛ぶつ書しょハ、佛ぶつ法ぽう最さい初しゆ系けい、  
更さら敏びん達たつ用ゆう明めい崇そう峻こん帝てい、  
此この御おん時とき小せう、  
物もの部ぶの、守まも屋やと蘇そ我がの軍いん、  
帝ていハ、馬うま子この謀む反はんりて、  
勿な體たい、  
賊あひの手てり、  
珍うまふと因果いんぐわ

とは申る中、恐ろしく推古女帝  
ハ既戸と太子とを以て一憲法と  
作り給ふそ肝要なる、舒明の后  
皇極帝蝦夷入鹿を誅戮し男  
小勝る績あり孝徳の世は年號

少、よもの出来様との政府の  
事、定りぬり、齊明ハ皇極二  
度目の名天智は時、階級の法也  
戸以藉の法も立つ、弘文帝ハ天智の  
子、叔父の天武と戦ひて、やうりて天

武の朝とある、此人倫の大變を、  
世り主申の亂とす、まんしんふ持統天皇女  
天皇文武の次の元明と元正天皇  
皆女帝、聖武の次の孝謙、淳仁  
帝と遷し遣り、二度目稱徳天

皇とくろ御身の女帝よて、道鏡  
法師と寵愛し、帝位を授くるを  
うししと、宇佐大神の御威靈と  
和氣清磨り直言り、國の基は定  
まらり、光仁の次桓武帝今の京

都を歴代の皇居と定免れりき  
平城の次嵯峨帝の學問素  
なれ筆道ふにけて日本三筆と  
命を申ぬ夫ゆゑなり淳和の時  
小令義解ふれり見よは政

道ふ心掛り記志るしなり仁明文  
徳清和帝清和源氏の元祖なり  
陽成光孝宇多天皇醍醐の菅原  
道真と用ひ終りと終り朱  
雀の朝よ将門と純友との亂



とまは、天慶中の事なれは、世小  
天皇の乱、村上冷泉、圓融  
帝、花山、一條、三條、帝、後、一條、帝、後  
朱雀、帝、後、冷泉、帝、後、三條、白河  
堀河、鳥羽、崇徳、近衛、崩、て、後

白河、鳥羽、上皇、小、立、ら、り、て、崇徳  
上皇、懼、り、て、遂、り、干、戈、を、動、く  
て、保元、の、亂、と、ま、り、少、り、二  
條、の、時、に、謀、及、せ、り、藤原、氏、を  
伐、て、より、平清盛、威、り、誇、り、武

門漸かん やく盛さりて、王室きうしつ次第しだい小可  
まろくろなり、六條ろくじょう高倉たかくら安徳帝あんとくてい、  
此時このとき源氏げんし蜂起はちうきして、頼朝よりとも義  
経よね義仲よねちゆう、兵日へいひ迫せまられ平家へいけ  
共筑どもく紫の波むらり沈しづみ、く皇くわう

統別とうべつ小後こご鳥羽とよとて、京みやこ都みやこ又また立  
下したと権けん力は皆みな鎌倉かまくらの物ものとて  
了つち、土御門つちのみかど帝みかど順徳じゆんとく帝みかど仲恭ちゆうきゆう帝みかど  
の時このときもて、源家げんけの陪臣ばいしん北條氏きたじょうし  
我われ々の自修じしゆ限かぎりなく、天子てんしと

廢もい上皇じやうくわうを、外ほりへ遷うつして、憚たげら  
る、後堀河帝ごほりがわてい、四條帝よじょうてい、後嵯  
峨ごさあま天皇てんかう後深草ごふかぐさ、龜山かめやま後宇多ごうたの  
御時おんとき、支那しなの元もとより、寇あがをなすに、  
此時このとき北條きたじょう時宗ときむね、兵へいを出いして攻せめ

戦いくさ、折おりしも風波かぜ立起たちり、生いじ  
て還かへり、只ただ三人さんにん、此こゝ弘安こうあんの軍いぐさとて、  
歴史れきしに耀かがやく、嘗こゝろなり、伏見ふしの次つぎ  
、後伏見帝ごふしみてい、後二條ごふたじょうの次つぎ花園帝はなうゑてい、  
後醍醐天皇ごだいごてんかう、北條きたじょう、積つる不平ふへい  
いまだほり

と洩さんあらしと謀はくく事ことと洩あらしら  
るまて、高たか時とき京みやこ都みやこ小攻せめ入いまは、  
帝みかどハ笠かさ置ぎ小道のぢままつ、夢いめヲ賚たま  
ひー忠ちゆう臣しんハ楠なん氏しト頼のりみみハ北きた  
條ぢゆう方がうハ別べつみみ又また光みつ嚴げん帝ていト押おし立たふ、

此こゝ北きた朝てうの始はじめト南なん北きた朝てうの分ぶんき  
口くち新しん田た足あし利り追おひくく義ぎ兵へいを  
起おこし高たか時ときを滅ほろし目め出で度ど間まも  
々々尊たう氏し命めいを拒こほみ免めん追おひ討たう  
の兵へい利りくく正まさ成せい討たう死ししつ

るよりかまふ吉野の山奥に神  
器をも移し置く此時是利  
尊氏の光明帝を戴き、後  
村上の時北朝に崇光帝を  
し、南朝方お打ちまかりて三皇を

考行

とられ又跡に後光厳を立て  
おろし、後圓融帝より後小松  
帝、南朝方お後龜山此時將  
軍義満等、和議をとりて天皇  
は、京都へ入り、神器をば、後

小松帝は傳へり、稱光天皇  
後花園後土御門の應仁以後  
後柏原帝後奈良帝正親町  
の世お玉り、足利氏も衰果て、織  
田ハ明智小打き、羽柴秀吉

哀衰誤

之を打ち、其他の諸將と後へて、  
天下始て一統せり、此を支那  
て名も高死、堪豆臣太閤秀吉  
ひ、後陽成の時よ、秀吉  
明と朝鮮と、戦ふ、病よ、

はてはる後、兵解けて、徳川前  
田秀頼を、助る約束堅くらて、石  
田の諸将と戦ひて、徳川大に勝  
利を得天下再一統——家康以  
来將軍と、なりて幕府を江戸

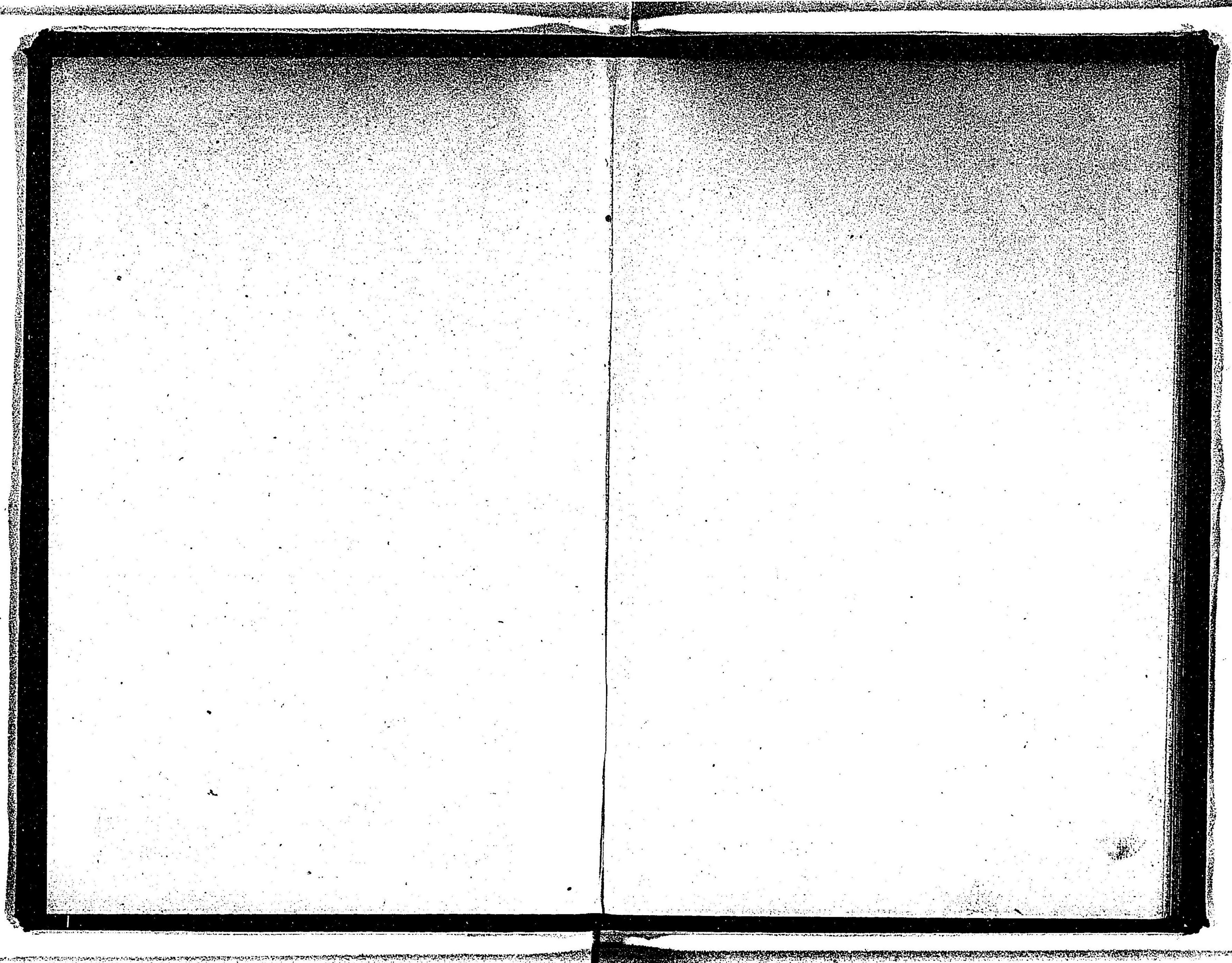
ふとく、後水尾の時大坂の軍  
轟皇臣滅び、明正天皇女天皇後  
光明帝、後西院、靈元、東山中御  
門、櫻田帝、桃園帝、後櫻町の女帝  
り、後桃園帝、光格帝、仁孝孝

明<sup>めい</sup>今<sup>きん</sup>上<sup>じやう</sup>み<sup>ぎ</sup>至<sup>し</sup>りて幕<sup>まくら</sup>府<sup>ふ</sup>政<sup>せい</sup>權<sup>けん</sup>を  
下<sup>か</sup>列<sup>れつ</sup>藩<sup>ばん</sup>廢<sup>はい</sup>せられ復<sup>ふく</sup>古<sup>こ</sup>一<sup>いつ</sup>新<sup>しん</sup>  
東<sup>とう</sup>京<sup>きやう</sup>を皇<sup>かう</sup>居<sup>き</sup>と定<sup>さだ</sup>め何<sup>なに</sup>事<sup>こと</sup>も  
知<sup>ち</sup>識<sup>し</sup>を廣<sup>ひろ</sup>め公<sup>こう</sup>道<sup>どう</sup>を基<sup>もと</sup>とす  
御<sup>ご</sup>誓<sup>せい</sup>文<sup>もん</sup>其<sup>その</sup>績<sup>せき</sup>は古<sup>いにしへ</sup>に照<sup>て</sup>りて復<sup>また</sup>も

も耀<sup>うやう</sup>ん

細川氏藏版





1

5



特  
9

000592-000-4

特51-955

古今袖鏡

ACB-0907

